

防災だより

発行・編集、問い合わせ
〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号
鎌倉市市民防災部総合防災課内
「鎌倉市自主防災組織連合会」事務局
☎0467-23-3000 (内線2615)
FAX 0467-23-3373

巻頭

過去の地震の経験から学ぶこと

鎌倉市自主防災組織連合会 会長 渡辺 英昭

新型コロナウイルスの感染者が国内で確認されてから3年を過ぎましたが、残念ながら収束の兆しが見えません。一日でも早くかつての日常生活が戻るように、感染予防対策を各自励行して頂きたいと思えます。

さて、自然災害は、地震・津波・高潮・土砂災害等ありますが、広範囲で大きな人的・物的被害をもたらすのが「地震」です。

今年は大正12年(1923)9月1日正午頃に発生した「関東大震災(推定M7.9)」から、100年になります。関東一円に大きな被害をもたらし、鎌倉市でも津波が襲来し、材木座や坂の下で広く浸水をしました。

しかし時が経つにつれて、今や関東大震災は多くの人々の記憶の中から忘れ去られ、あの未曾有の原発事故による複合災害をもたらした東日本大震災(平成23年3月 M9)ですら残念ながら今や風化しつつあります。

しかし、「首都直下地震(南関東地域を震源地とするM7クラスの地震)」が今後30年以内に70%の確率で発生するといわれています。今日発生するかもしれませんし、30年後かも分かりません。地震予知が正確に出来ない以上、しっかりとした備えをしておく必要があります。

大震災後、言い伝えられている言葉があります。三陸地方では度重なる津波により、つとに知られている言葉として「津波でんでんこ」があります。

最近では、阪神淡路大震災(平成7年1月 M7.3)で「日頃の準備と助け合い」として、近所の方の助け合いと被災地のボランティア活動の重要性を示し、ボランティア元年とも言われています。

東日本大震災では、釜石市で防災教育を担当されていた片田教授が津波から命を守る三原則として、「想定にとらわれぬ」「その状況下において最善を尽くせ」「率先避難者たれ」ということを提唱し、市民の命を救っています。

私の住む海岸近くでは、関東大震災を経験した古老の話として「津波が来たらあそこに逃げろ」という話が言い伝えられています。

経験として学んだことを伝えて行くことも、大災害を風化させない大事なことだと思います。



「鎌倉市防災・安全情報メール」配信について

鎌倉市では気象情報や避難所開設情報などの防災情報や不審者情報などの安全安心情報を携帯電話やパソコン等へ電子メールで配信するサービスを行っています。

登録に必要なものはメールアドレスだけで、氏名や住所は必要ありません。

メールの配信を希望する方はQRコードの方法により登録してください。

鎌倉市 市民防災部 総合防災課 (☎23-3000 内線2614) 地域のつながり課 (内線2954)



こちらのQRコードを読み取って画面の指示に従い登録を行ってください。

鎌倉市自主防災組織連合会の令和4年度の主な取組み

- 令和4年度 総会 書面会議にて執り行いました。
- 令和4年度 総合防災訓練
- 令和4年度 自主防災組織リーダー等研修会
- 令和4年度 沿岸部一斉津波避難訓練
- ブロック訓練
 - 10月2日 西鎌倉小学校(避難所運営訓練)
 - 11月12日 深沢・富士塚小学校合同(避難所運営訓練)
 - 11月13日 七里ヶ浜小学校(避難所運営訓練)
 - 3月5日 今泉小学校
 - 3月11日 大船中学校

※今年度の視察研修は中止し、来年度視察研修を実施する予定です。



市長表彰

1月6日に山崎浄化センターで行われた消防出初式において、自主防災活動優良団体として梶原山町内会防災委員会が市長表彰を受けました。



大規模災害ではボランティアの支援が必要です 受入のための仕組みを理解！準備をしておきましょう

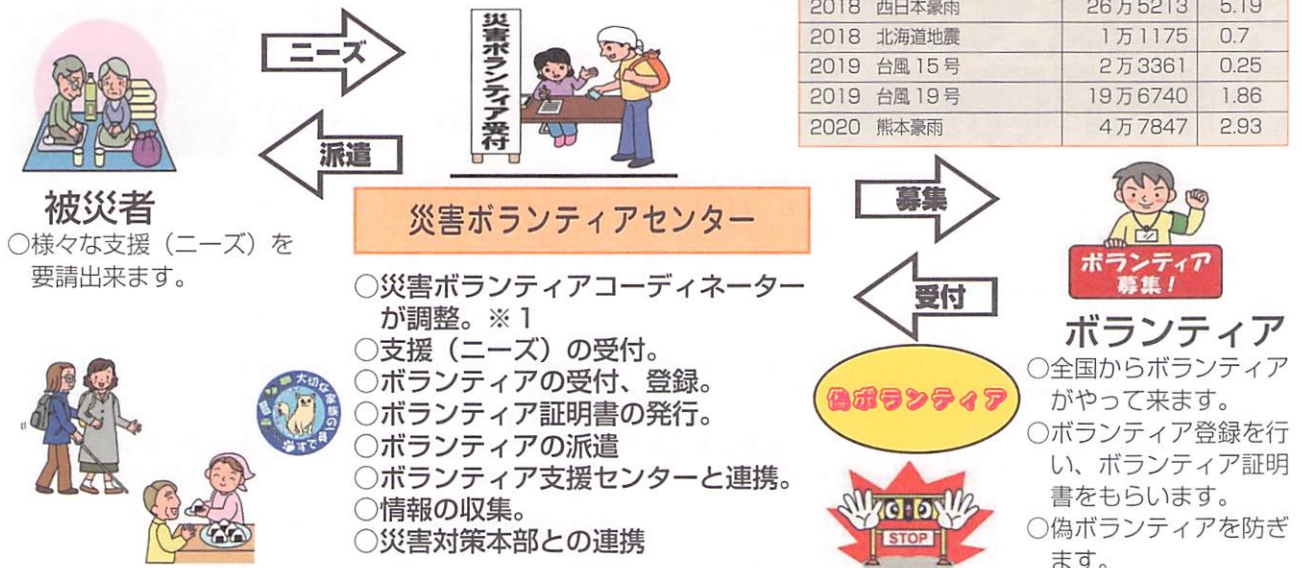
災害ボランティア元年といわれた阪神淡路大震災から28年、その後、中越沖地震、東日本大震災や西日本豪雨など自然災害の都度ボランティアの活動が求められてきた。被災地自体の社会福祉協議会が主体で災害ボランティアセンター（VC）を設置し希望者を受付、支援が必要な場所に派遣する仕組みが定着してきた。内閣府もこの動きを重視し「受援力」として地域防災力の一つに位置づけて推奨している。

右表は、VCに登録してボランティア活動した延べ人数で、阪神淡路大震災に次いで多かったのは東日本大震災で、少ない地域は、交通アクセスの悪い場所や受入側の能力の限界、新型コロナの影響で県域を越えての活動が制限された等で格差が生じている。

年	大規模災害	延べ人	住宅/人
1995	阪神・淡路大震災	216万6000	3.39
2004	豊岡水害（台風23号）	5万6020	0.75
2004	中越地震	9万3205	0.76
2007	能登半島地震	1万6103	0.55
2007	中越沖地震	2万7087	0.61
2011	東日本大震災	154万5667	1.33
2011	紀伊半島大水害	3万1368	1.2
2012	九州北部豪雨	4万4233	2.99
2014	広島土砂災害	4万1679	8.74
2015	関東・東北豪雨	5万3383	2.29
2016	熊本地震	12万0516	0.58
2017	九州北部豪雨	6万2261	16.11
2018	西日本豪雨	26万5213	5.19
2018	北海道地震	1万1175	0.7
2019	台風15号	2万3361	0.25
2019	台風19号	19万6740	1.86
2020	熊本豪雨	4万7847	2.93

災害ボランティアセンターとは

災害時に設置される被災地での防災ボランティア活動を円滑に進めるための拠点です。近年では、被害の大きな災害に見舞われたほとんどの被災地に立ち上げられ運営されている。



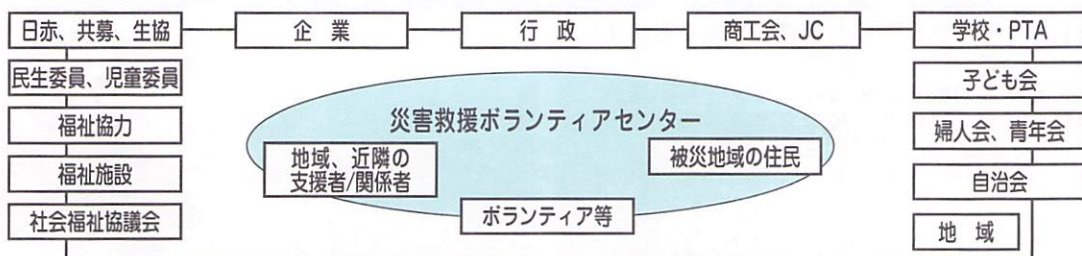
※1 災害ボランティアコーディネーターは？

防災リーダーや自主防災組織の方、イベントの役員などが適している

- 日頃から地域の事情に詳しく被災現場の様子をよく知っている。
- 被災された方は、身近な町内会長や防災リーダーに相談することが多い。
- ニーズの把握やボランティアの募集・調整・派遣を行うコーディネーターとしてとても適している。

受援力の向上

ボランティア受入の仕組み



日頃から地域が協働して外部支援を受け入れ、連携する基礎をつくる

- 関係機関との協働：行政、企業、NPO、専門職能団体、地域災害ボランティアネットワーク
- 外部ボランティアとの協働：地域の自助努力を支え、地域力の回復をはかるために外部の力が必要

災害ボランティアセンターの担い手は？

一般的に、被災した地域の社会福祉協議会、日頃からボランティア活動に関わっている人たち、行政が協働して担うことが多い。被災地外からの災害ボランティアセンター運営経験者が係わる場合もある。鎌倉市では、協定に基づき、市からの要請により、鎌倉市社会福祉協議会と鎌倉青年会義所と協力して災害ボラセンを設置し、運営は鎌倉市社会福祉協議会が中心となる行方。

【参考】内閣府 HP 受援力 https://www.bousai.go.jp/kyoiku/bousai-vol/product/juenryoku/juenryoku_bw.pdf

地域の活動

鎌倉地域

令和4年度浄明寺町内会「防災の集い・芋煮会」の開催
浄明寺町内会 会長 荒井正

令和4年12月4日(日)10時から浄明寺5丁目広場(町内会では防災広場と呼んでいます)において、防災の集いを開催しました。

今回のプログラムは、

- ①防災広場に行ってみよう!
- ②防災広場には何が備えてあるの?
- ③炊き出しに参加しよう!
- ④トランシーバーを使ってみよう!

との内容で小中学生、子供会のご両親の参加をお願いし、子供達に楽しく学んで頂く企画としました。

広場には防災ベンチが有りベンチを外すと「かまど」として使用できる説明や防災倉庫の中の機材を並べて使用方法などを説明し、興味を持っていただけたと思います。

子供会が企画したトランシーバーで連絡を取りながらの宝探しは使い方の練習にもなり景品も喜んで頂けたと思います。

炊き出しは各自お米を用意して頂き、大鍋でお湯を沸かし耐熱ビニール袋でご飯を作り青年部が調理した芋煮(防災農園で収穫した里芋等)で皆さんと美味しく頂きました。

令和4年度から「浄明寺防災かわら版」を5月に発行し、年2回の予定で今後発行していく予定です。



深沢地域

梶原山町内会 防災訓練の実施
梶原山町内会 会長 須藤清志

梶原山町内会では昨年末になってようやく懸案だった大災害時の「安否確認」の訓練が実施できました。

住民が家族の安全を確認した後「無事」の黄旗を出し、それを互いに確認し合い結果を町内会館の対策本部に報告します。

対策本部では状況を集約し、必要ならば住民からなる救援隊を編成します。今回は初めてなので、全員の無事が確認されるシナリオで実施しました。



町内会では昨年度に防災ビデオを制作していました。

ビデオ制作に関しては市内で防災活動をしている高校生グループ「玄海」が撮影・編集を全体的に協力してくれました。

安否を報告する役割の住民が事前にビデオを見ることにより、多くの参加者が訓練の目的や流れが理解できていたので、初めての安否確認訓練にしては、順調に町内全域からの報告を集約できました。

阪神淡路大震災のような災害時には、救助隊がすぐには来れないことが予想されます。今後は素人ばかりの住民でできることは何か? 専門家の助言を聞きながら考えていきたいと思ひます。



腰越地域

「七里ガ浜小学校合同防災訓練」

七里ガ浜二丁目自治会 会長 白井誠一

11月13日(日)10時から「七里ガ浜小学校ブロック自主防災運営委員会」主催で、七里ガ浜自治会、七里ガ浜町内会、七里ガ浜二丁目自治会、北稲村ヶ崎自治会が参加し、鎌倉市、鎌倉消防、消防団21分団、七里ガ浜小学校の協力で実施しました。

場所:七里ガ浜小学校体育館と校庭で実施されました。
テーマ:避難行動、避難生活「自らの命は自らが守る」

プログラム

- ① 総合防災課から警戒レベル、避難等情報の発令について
- ② 避難所生活
防災倉庫備品、備品食糧の確保数や使い方、感染防止策
(簡易トイレ模擬体験、サバイバルフーズの作り方)
- ③ 在宅避難生活
家庭での準備、備蓄品についてその後、校庭に移動し、
- ④ 給水について
消防団放水訓練体験、消防車と記念撮影(子供用消防服)
飲料水兼用耐震性貯水槽および使い方の説明
給水車からの給水方法
防災倉庫見学など



参加者は、有意義な半日を過ごしました。

玉縄地域

城廻町内会 会長 渡辺寿三

玉縄地区防災推進グループ発足。

4ブロック(玉縄中学校、玉縄小学校、植木小学校、関谷小学校)避難所運営マニュアル完成に伴い、各ブロック長調整会議(玉縄地区防災推進グループ)毎月、第一木曜日に4名(ブロック長)が集い進捗状況について調整を図り各ブロックにおける共通課題、具体的な例に基づきながら避難所マニュアル導入の策定について共通課題として取り組み「避難所マニュアル」の活用を計ります。



バケツリレー



物を手渡しで運ぶときも同じように、ジグザグに並ぶと楽だよ

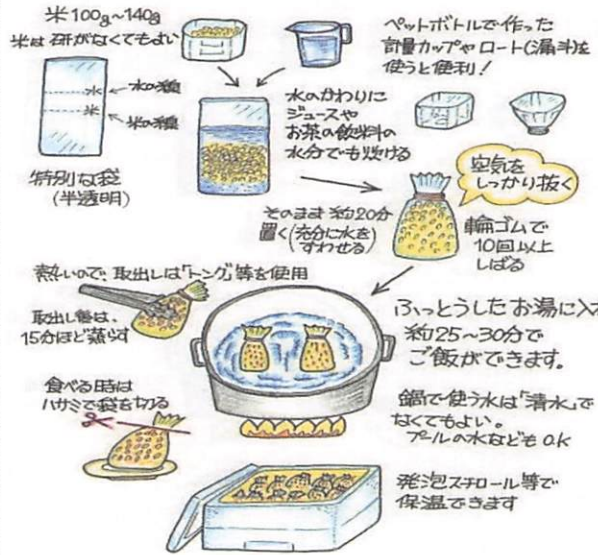
みんなで力を合わせるときには、あいての顔が見えることが大切です。

顔を見る、声をかけることで、みんなの力を合わせることができます。

「息を合わせる」ことは、生きていくうえでとても大きなはたらきです。声を出す、あいてを見るれんしゅうのひとつです。

炊飯体験

～ヨドバシ 炊出袋の活用～



キリトリ線

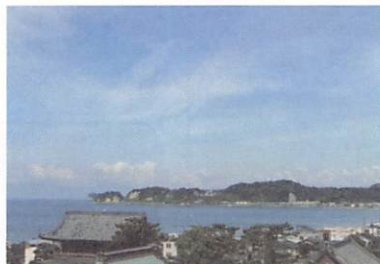
第一中学校の活動

『防災を自分事として捉え、周りのために何ができるのかを考え、発信し、探究する』

本校では、総合的な学習の時間を使って「防災学習」をテーマに、上記の重点目標を達成すべく3年間軸の通ったカリキュラムを展開している。学年ごとにその取組を紹介する。



1年 防災マップ



一中からの景色

1年次は「地域と私」をテーマに、津波避難所巡りや学区内の防災マップの作成に取り組んだ。

2年次は「避難所と私」をテーマに、今年度は校内宿泊をとしての避難所体験や震災語り部による疑似喪失体験を行った。

3年次は「鎌倉市と私」をテーマに、防災学習型の修学旅行で岩手県大槌町を訪問したり、また、今年度初の取組で市教育委員会と広告会社の協力による「防災広告づくり」を行い、防災を通して地域社会への参画を果たした。



2年避難所体験 (仮設トイレ) 段ボールベッド

3年修学旅行 (大槌町での震災疑似体験プログラム)

防災だより 編集委員会

芝原自治会 渡辺英昭
十二所町内会 角田正敬
諏訪ヶ谷町内会 梶原秀夫
梶原山町内会 須藤清志
田園町内会 水島三千夫
岡本町内会 岩本優

印刷 有限会社 松井印刷



3年防災広告作り

自主防第9号
令和5年(2023年)3月 日

鎌倉市自主防災組織連合会会員 各位

鎌倉市自主防災組織連合会
会長 渡辺 英昭

「鎌倉防災だより第18号」の配付について(お願い)

日頃から当連合会活動に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、連合会会員の皆様の活動や行政からのお知らせ等を掲載した「鎌倉防災だより第18号」が完成しましたのでお送りいたします。

当連合会加入組織の皆様へ全戸配付することとしております。

お届けした部数は、昨年、貴組織から会費納入の根拠として、お知らせいただきました世帯数をもとに配付しております。

お忙しいとは存じますが、配付についてご協力いただきますようお願いいたします。

お問い合わせ又は部数不足等がございましたら、事務局まで連絡をお願いいたします。

問い合わせ先：事務局
鎌倉市役所総合防災課
防災担当
電話 23-3000